

日本の大学はどこへ

堀尾 輝久

ほりお・てるひさ
中央大学・文学部

この十年間、一九九一年の大学設置基準の大綱化・規制緩和を境に、日本の大学は大きく変わってきた。それはまず教養部の解体として現れ、さらに大学の自己点検と外部評価制度の導入によって、「改革」が強く求められることになった。規制緩和は大学内部からの自己改革をも促したが、それ以上に大学サバイバルのための競争を意識しての改革でもあった。

少子化による大学進学人口の減少は、二〇〇九年には志願者数と大学定員が等しくなり、希望者全員入学の時代を迎えることが予想される中で、各大学が地球時代にふさわしく、学生のニーズも掘り起こしながらその研究と教育を改革していくことが強く求められていることは確実である。

しかし、この間、現状のままでは大学生が多すぎ、その学力水準の低下は必至だとする見方は根強く、それは一方で大学人口の抑制策となり、他方で大学に競争原理を徹底させ、少数の人材確保を目標とし、国立大の予算配分や私学助成にも業績主

義にもとづく格差をつけ、大学の淘汰、再編をすすめる政策提言が経済界、文科省を中心に繰り返しなされてきた。

このことはとくに私立大学にとっては死活問題として意識され、各大学での講義負担やトップダウン型の管理強化によって、教員の労働強化はすすみ、教授会権限が縮小される傾向も目立ってきた。

国立大学では、独立行政法人化が打ち出され、国立大学を「法人」として、各大学の独自性を生かした大学づくりを促すとともに競争原理と予算配分をワンセットに、その再編を計ることがすすめられてきた。国立大学は、当初はその方針に反対の意向を示していたが、二〇〇一年に入って、文部省も科学技術庁と合併して文部科学省となり、文教政策と科学技術政策をワンセットにすすめる体制をつくり、教育改革国民会議でも中央教育審議会でも、高等教育改革については重点的に取り組んできた。そして、文科省の国立大学等の独立行政法人化に関する調

査検討会議はこの三月に新しい「国立大学法人像」についての最終報告をまとめて発表した。それによれば、早ければ、二〇〇四年度からの発足が予定されている。国大協もその基本方針の変更を迫られ、法人化は既成事実のごとくすすめられている。

ここでは、規制緩和と競争の原理の導入を主軸とし自己責任とアカウンタビリティーにもとづいて、国・公・私大が同じ土俵で競争し、産学協同をすすめるところへ公的資金の公正な配分を計るといふ。

大学が営利企業化することは必至だが、公的資金の配分(例えば、従来の私学助成)の見直しも必至であり、大学の自治、自由の原則は後退し、格差序列化は進み、企業体としての大学の統廃合へ向かうことも計算の内ということであろう。国立大、研究機関の統合はすでに進められ、各県の国立大学に設置された教員養成学部の統廃合は、その矛盾を露呈しつつある。

そして、昨年出された遠山プラン「大学・国立大学」構造改革の方針二〇〇一年六月」と「トップ三十」への重点助成方針は中堅大学にあせりと不安を拡げている。企業経営論的視点からの競争原理は研究における功利主義と能率主義を広げ、基礎研究及び人文・社会科学研究の軽視を生み、さらに学問研究の自由そのものを企業秘密のベールの中に閉じ込め、学問の公共性を奪うことにもなる。悪評の「トップ三十」はさすがにCOE(Center of Excellence)とこう表現に改められたのだが、弱肉強食の性

格は変わらない。

その上、その「改革」は政府の行財政改革の基本に沿ったものであり、つまりは、国立大学財政を縮小し、私学助成金を減らすという大目的の枠の中の予算配分の重点化であり、それが強きを助け弱者を切り捨てる政策であること、全体として金を出さない「改革」であることも明らかなことだ。

大学全入時代に、いかにして高等教育の水準を維持、向上させ、専門的力量とともに、現代にふさわしい教養をどう保証するかという発想ではなく、国際競争の時代に乗り遅れないために、少数の人材を確保する。そのための重点配分政策を軸とし、大学を種別化差異化し、底辺部分は競争による淘汰に待つという発想では二十一世紀の高等教育の展望は暗いといわねばならない。国際的競争力に応える人材育成を求める財界主導の大学改革は、このまますすめば財界の求める「科学技術知」を支える教育の基盤をさえ否定することになるのではなからうか。

それは高等教育機会の拡充と無償化を求める人権規約やユネスコの諸文献に見られる高等教育の諸原理とも大きく離れていくことになる。青年の自立を促し、専門的力量を身につけ働く若者たちにとっても、学び直したくなるような高等教育の内容、そして、このことが可能となるような大学と企業、学問と労働の協同のシステムをどうつくりだすか、国民の求める大学改革への期待の軸はここにあるのではなからうか。